

令和5年度 キッズハウスよいちにおける自己点検評価結果

保育所保育指針において、保育士及び保育所の自己評価並びに公表が努力義務とされています。これに基づきキッズハウスよいちの保育の質の向上を図る為に自己評価を実施しました。

保育園としての自己評価について、評価項目、視点方法及び評価結果を下記の通り公表し、評価の結果を踏まえ今後の保育内容の充実に繋げていきたいと思っております。評価はA,B,C,Dの4段階評価とします。

A:充分達成されている B:達成されている C:取り組んでいるが成果が充分でない D:取り組みが不十分

項目	内 容		総合評価
第1章 総則 教育・保育の基本			
基本 教育・ 保育の	1	園の保育目標、保育方針を理解している	A
	2	「保育指針」を読み、その内容を理解している	A
	3	乳幼児期の教育及び保育は、人格形成の基礎を培う重要なものであることを理解している	A
	4	乳幼児期の教育及び保育で、生涯にわたる「生きる力」の基礎が培われることを理解している	A
	5	乳幼児期の教育及び保育は、子どもの最善の利益を考慮してすすめることを理解している	A
配慮 教育及 び保 育の	6	一日の生活の連続性やリズムの多様性に配慮して保育を展開している	B
	7	子どもとの温かなやり取りやスキンシップを、常に心がけている	A
	8	子ども一人一人に、わかりやすい温かな言葉で、おだやかに話しかけている	A
	9	「だめ」「いけません」など、制止する言葉を不用意に用いないようにしている	A
	10	「できない」「やって」「いや」などと言ってくる時、その都度気持ちを受け止めて対応している	A
指導 計画 作成 と評 価	11	登園時、子どもの状況に応じて、抱いたり、やさしく声をかけたりしている	A
	12	指導計画や記録には、いつも養護面の配慮が記載されている	A
	13	指導計画に基づいて、環境を構成している	B
	14	子どもの姿を、家庭での生活を踏まえ理解している	A
	15	子どもの興味・関心や意欲に合わせて活動ができるように、指導計画を作成している	B
	16	自分の保育について反省し・評価し、それを次の指導計画の作成に生かしている	B
	17	子どもの活動の展開に合わせて、援助の仕方が具体的に指導計画に書き込まれている	A
子 ど も の 発 達	18	日々の保育記録が、子どもの発達援助に必要であることを知っている	A
	19	日々の保育記録を、子ども一人一人の発達理解に生かしている	A
	20	子どもの発達は、豊かな心情、意欲、態度をを身につけ、新たな能力を獲得していく過程であることを理解している	A
	21	子どもと生活や遊びを共にする中で、一人一人の心身の状態を把握している	A
	22	子どもは様々な環境との相互作用により発達していくことを理解している	A
	23	子どもが興味や関心を示し、主体的に関わる環境を用意している	B
	24	子どもが、興味や関心をもったものに対して自分から関わろうとしている姿を認めたり励ましたりしている	A

「保育所保育指針」は定期的に読み深め、保育の基本を理解し指導計画の実践に繋げている。子どもに経験させたい思いがあり指導計画を作

成するが、環境構成に悩む職員が多く課題となる。今後園内研修で発達や季節に合った遊びの設定や環境構成を考えていく。

第2章 「ねらい」及び「内容」

ねらい 及び 内容	25	温かい触れ合いのなかで、心と体の発達を促すように努めている	A
	26	子どもが自ら体を動かす機会を十分に確保している	B
	27	一人一人の子どもに、いつでもやさしく対応するように努めている	A
	28	子どもが自分の気持ちを表したときには、その気持ちを理解し受け止めようとしている	A
	29	つまむ、たたく、ひっぱるなど、子どもの感覚の発達を促すような玩具を用意している	B
	30	子どもの探索意欲を満たすような活動を取り入れている	A
1 歳以上 3 歳未満 児の 保育に 関する ねらい 及び 内容	31	安定感をもって生活できるように受容している	A
	32	体を動かす機会を十分に確保し、子どもが自分から動かそうとする意欲が育つようにしている	A
	33	食事、排泄、睡眠、衣服の着脱、身の回りの清潔などは子ども一人一人の状態に応じ、落ち着いた雰囲気の中で子どもが自分でしようとする気持ちを尊重して対応している	A
	34	基本的な生活習慣の形成にあたっては、家庭での生活経験に配慮し、家庭との適切な連携の下で行っている	A
	35	子どもの気持ちを尊重し、温かく見守り、愛情豊かに、応答的に関わっている	A
	36	思い通りにいかないときなど、子どもの気持ちを受け止めるようにしている	A
	37	玩具、絵本、遊具などに興味を持ち、それを使った遊びを楽しめるような環境を用意している	B
	38	感覚の発達が促されるように、音質、形、色、大きさなど子どもの発達状態に応じて適切な玩具などを選んでいく	B
	39	自分で言葉を使おうとしたときに、応答的な関わりをしたり話しかけたり、間違っても、ありのまま受け止めたりしている	A
	40	「おはよう」など心のこもった日常の挨拶をしている	A
事配 項 慮	41	保育者などを仲立ちとして、生活や遊びのなかで友だちとの言葉のやり取りを楽しめるようにしている	A
	42	「取ったらダメ」「貸してあげなさい」など単に行動を制止して子どもの気持ちを抑えるのではなく「どうしたの?」「困ったね」など思いを察し、共感して受け止めている	A
	43	歌や簡単な手遊びに慣れ親しみ口ずさんだり、歌に合わせて楽しんで体を動かすことができるようにしている	A
	44	水、砂、土、紙、粘土など、様々な素材に触れることができるよう、環境を整えている	B
事配 項 慮	45	一人一人の子どもが、眠いときに眠ることができる場所を用意している	A
	46	リズムに合わせて手足や体を動かせるように、環境に配慮している	A

今まで「肯定的な言葉かけ」を課題に園内研修で繰り返し取り組み、全職員が達成出来た事は大きな評価となる。一人一人の子どもの思いを受け止め今後も丁寧に援助していく。年齢に合った教材、環境設定等心がけているが、もっと

充実することが出来るのではないかと、教材準備等環境の取り組みに課題が見られる。今後も園内研修でクラスごと具体的に事例を出し合い検討しながら環境構成について学んでいく。

第3章 健康及び安全

健康支援	47	子どもの日々の健康状態を把握し、それを一人一人の保育に生かしている	A
	48	衣服の着脱や食事などについて、子ども一人で見守りながら援助をしている	A
	49	園での活動の様子や発達の状況などを、保護者に伝えている	A
食育	50	子どもが落ち着いて食事・おやつを楽しめるように配慮している	A
	51	その日の給食の食べ具合などを、必要に応じて保護者に知らせている	A
	52	子どもの体調に応じて、食事の量を調節するなどの配慮をしている	A
環境	53	室内の温度や湿度、換気をチェックしている	A
	54	保護者の気持ちに配慮し、送迎時に安心できるような関わりをもてるよう心がけている	A
の災害への備え	55	地震、洪水などの際の、園から避難場所への避難経路を把握している	A
	56	避難訓練を振り返り、うまくいった点や反省点を記録に残している	A

感染防止に目を向け、室内換気、温度調節、消毒等衛生管理に全職員で取り組んでいる。防災

について改めて避難方法、避難場所、役割分担等振り返り、対策が十分周知出来るようにする。

第4章 子育て支援

保護者に対する支援	57	子どもについて、保育について、家庭での様子について共通理解を得るよう努めている	A
	58	送迎の際に、保護者と言葉を交わしたり、連絡帳で情報を交換したりするようしている	A
	59	生活に必要な習慣が身につくよう、家庭との連携に努めている	B
	60	保護者との情報交換の内容を、必要に応じて記録している	A
	61	保護者からの相談内容をなどを、自分一人の問題にしないで園全体で受け止めようとしている	A
地域子育て支援	62	地域の人々と親しくあいさつや会話を交わしている	A
	63	地域における子育て支援のための園の取り組みを理解している	A

園での様子を連絡帳やクラスだより、送迎時の口頭で伝える事が出来るよう対応している。園で生活習慣が身につくよう、個々で援助し保

護者に伝えているが、家庭でも同じように援助してもらう事に難しさを感じる時がある。今後も子育ての楽しさを保護者と共有しながら連携していく。

第5章 職員の資質向上

職員の資質向上	64	他の人の意見を素直な気持ちで聞いたり、自分の意見を述べるができる	B
	65	「保育指針」に、園の自己評価が努力義務などとして位置づけられているのを知っている	A
	66	自己評価など、自分の保育を定期的に振り返る機会をもっている	A
	67	自己評価などで課題を見つけ、その課題の解決のために計画的に自己研鑽している	A
	68	職務上、知り得たプライバシーに関する情報秘密を守っている	A
	69	子どものこと、クラスの出来事などで必要なことは園長や主任に報告、連絡、相談をしている	A
	70	園に関することについて、みだりにまたは不正確なままに他へ話したりしない	A
	71	クラス的环境構成などについてお互いに素直に意見交換している	A
	72	子どもの発達と内面理解についてなど保育に関わる様々な知識を習得したり技能の向上に努めている	A
	73	趣味・人とかかわりなど、うるおいのある生活を心がけている	A
74	子どもと会話をしたり、遊んだりすることが好きである	A	

自分の意見を述べる事が苦手であると感じている職員がいるが、職員同士コミュニケーションを図ろうと意識する姿が見られる。今後も話し

やすい雰囲気の中、報告、連絡、相談を心がけ、情報共有する事に努めていく。

総合評価

子ども一人一人に寄り添い思いを受け止め肯定的な言葉かけ、関わりが出来ている事の評価は大きい。保護者からの口頭伝達が職員で情報共有されていない事があった。今後、報告、連絡等全職員でコミュニケーションを図り、情報共有を確実にしていく。教材や環境構成に課題が

見られたので、次年度は園内研修で事例を出し合い検討を重ね、子どもたちの遊びがより充実するよう環境の見直しを行い、保育の質の向上に努める。能登半島地震の教訓を園の防災・安全管理に生かし全職員で危機管理意識を高めていく。